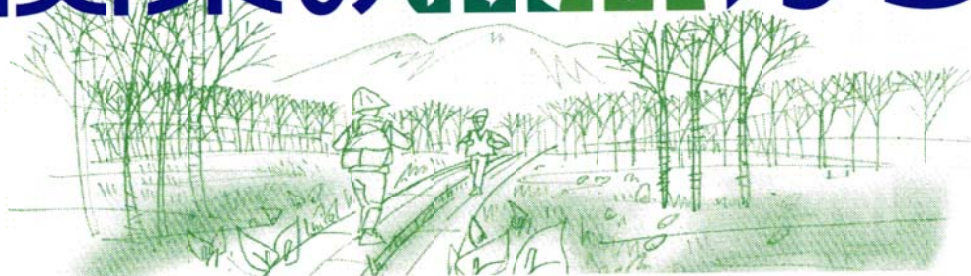


平成23年3月1日

第84号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



韮崎市から南アルプスを望む（山梨県韮崎市）

（撮影者：山梨森林管理事務所 興石 英明）

福島県内の2箇所で「森林共同施業団地」を設定

計画部 計画課

私と国有林 「フォレストサポーターが育つことを願う」



中村建設株式会社 品質・環境グループ 田邊 昌明 氏

2011・国際森林年



計課部計画課

**福島県内の2箇所
「森林共同施業団地」を設定**

福島県内での森林共同施業団地の設定や民有林と国有林が連携、協力した豊かな森林づくりを推進するため、2月21日に福島県知事と関東森林管理局長とで「豊かな森林づくりに関する覚書」を締結しました。

また、25日には、福島県内の2箇所である森林共同施業団地の設定に関する協定を締結しましたので、その概要をお知らせします。

福島県との覚書の締結

昨年11月に取りまとめられた「森林・林業の再生に向けた改革の姿」では、広範に低コスト作業システムを確立する条件整備の一つとして、民有林と国有林が一体となって効率的に路網整備や間伐等の森林整備に取り組み「森林共同施業団地」の推進が位置付けられたところです。

一方、福島県内においては、民有林と国有林の関係者が県内の森林・林業について議論する場として、昨年2月に「美しいふくしまの森林の整備を考える会」（以下、「考える会」という。）が設立され、約1年かけて路網整備や施業の集約化など具体的な議論を重ね、今回の福島県との覚書の締結に結びついたものです。

福島県は森林面積の42%が国有林であり、国有林が果たすべき役割に期待されているところです。このような中で、民有林と国有林の枠を越

え、福島県の森林を健全な状態で次世代に引継ぐため、森林の適正な整備や保全、森林資源の循環利用により、低炭素・循環型社会の連携を図るとともに、地域に根ざした力強い産業としての林業の再生に向けて、福島県と関東森林管理局が連携して取り組むことで合意に達したものです。

福島県庁で行われた締結式には、報道陣や関係者が見守る中、佐藤雄平福島県知事と、白杵徳一関東森林管理局長が覚書に署名。その後、あいさつに立った知事から「民有林・国有林が連携し、一体的に整備を推進することにより林業の振興と森林整備による循環型社会の構築につながる。」、続いて局長から「北海道に次ぐ国有林面積を有する福島県において森林共同施業団地が設定されることは誠に有意義であり、他地域へのモデルとなることを期待したい。」とそれぞれあいさつがあり、その後、両者で固い握手が交わされました。

福島県内の2箇所で協定を締結

福島県と関東森林管理局で締結した「豊かな森林づくりに関する覚書」に基づき、2月25日に福島森林管理署管内及び白河支署管内において、森林整備推進協定が締結されました。協定では、森林共同施業団地を設定し、森林整備の目標や方法、事業に必要な事項などを定め、協定者が



調印式で挨拶する中山福島森林管理署長

笹森山地区森林整備推進協定

福島森林管理署管内

この協定は、「考える会」において、多様な主体が森林施業を行って、笹森山地区での森林共同施業団地化に向けて、現地検討会を含めた6回の会議で関係者が合意に達し、

連携して効率的かつ安定的な林業経営の基盤づくりと森林整備を推進することとしており、協定期間はともに平成27年3月31日までとしています。なお、この森林共同施業団地の設定は、昨年9月の伊豆森林管理署管内に次ぐものです。



調印式を終えた天井白河支署長、岡部古殿町長、大高県中農林事務所長

古殿地域森林整備推進協定

福島森林管理署白河支署管内

この協定は、古殿町から路網整備により森林整備を進めていきたいとの要望から、関係者により森林共同施業団地の設定が可能か検討を進めてきたところ、福島県中農林事務所及び古殿町による個人所有者と調整を続け、今回の3者による協定締結に至りました。

その後、阿武隈川流域林業活性化センターを事務局に、協定締結者6者と、福島市、二本松市を加えた検討会において具体化に向けた検討を進め、締結に至ったものです。

この福島県との覚書締結、県内二地域での協定締結により、関東森林管理局管内では、二県において「森林共同施業団地」の設定に至りました。今後、福島県、静岡県内のみならず関東森林管理局管内において、地域の実情を踏まえつつ、民有林・国有林が連携し、効率的な森林整備等の推進を一層進めて参りたいと考えています。

(注)

「森林共同施業団地」とは、民有林と国有林が混在する地域の森林において、間伐等の森林整備などの森林施業の一体化を図るとともに、一体的な路網整備による林業の効率化(低コスト化)、木材の生産において販売面や発注面でのロットの拡大によるスケールメリットの効果が発揮されるよう設定するものです。



2011・国際森林年

森林整備推進協定の概要

位置 名称	笹森山地区(福島市・二本松市) 笹森山地区森林整備推進協定	古殿町水沼ヲテマ地区(古殿町) 古殿地域森林整備推進協定
区域及び面積	福島市及び二本松市内の森林 1,408ha(民有林825ha国有林583ha)	石川郡古殿町内の森林 207ha(民有林104ha国有林103ha)
森林整備面積	572ha	105ha
路網整備	3,980m	2,940m
協定締結者	福島県県北農林事務所 社団法人福島県林業公社 福島県北森林組合 水原生産森林組合 独立行政法人森林総合研究所 森林農地整備センター 福島水源林整備事務所 福島森林管理署	古殿町 福島県県中農林事務所 福島森林管理署白河支署
協定の期間	平成23年2月25日～平成27年3月31日 ※ 期間満了時において、各協定者の協議により延長することが可能	

※ 森林整備面積は、各主体における協定期間における各種整備の見込み数量を合計したものです。



水際まで植栽されたスギ

野生生物の生息・移動経路など生物多様性の保全や国土保全において重要な役割を担っている溪畔林は、一般に土石流による攪乱などにより形成され、変化に富んだ環境に適合した多様な種で構成されています。しかしながら、戦後を中心に造成された約1千万畝の人工林では、水際までスギなどの一斉林となっている箇所も多く見受けられます。

このため、当センターでは、溪畔にある人工林を、生物多様性の保全の観点から天然林へ誘導する場合の作業指針「溪畔林再生のための施業技術の確立」(林野庁指示課題 開発期間 22年度から26年度)として技術開発に取り組んでいます。

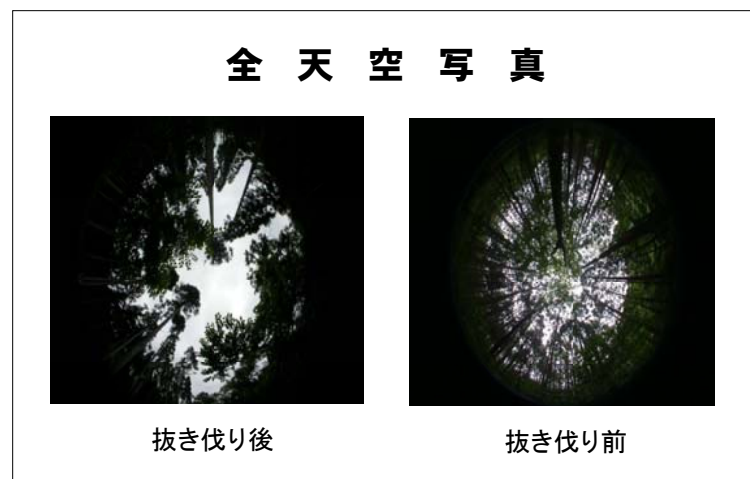
この取組は、既に平成16年度から局の経常課題として行っているもので、第4回自然環境保全調査河川調査(旧環境庁)において、全国で12番目に自然度がある川として指定された茨城森林管理署内の高萩市国有林内の大北川に試験地を設定し、平成21年度まで取り組んできました。

光環境改善のために抜き伐り等を実施した結果、全天空写真を用いた開空度が、プロット内の平均で11.5割であったものが16.9割となり、また、広葉樹の種類はプロット内調査で、2〜6種であったものが12〜20種となり、出現した広葉樹の最大樹高は、190センチ程度に成長しているというデータが得られました。

このように溪畔林を構成する多くの種が発生し、定着しつつあることから、平成22年度からは、試験地を追加するとともに、学識経験者からなる専門委員会を開催し、その結果を踏まえて、具体的な指針を作成することとしてしています。



専門委員会現地検討会(平成22年11月24日)



全 天 空 写 真

抜き伐り後

抜き伐り前



モデルとする溪畔林(試験地上流)



森林技術センター

高尾の森から 季節は春！

森林教室で自然観察を実施

立春の日の2月4日（金）、小学校の森林教室のプログラムで自然観察を行いました。

今回の参加者は、八王子市内の小中学生86名です。普段、あまり森林の中を歩くことがない子どもたちは、風の音や水の流れる音、鳥の声などに興味を示しながら散策していまし



シモバシラ（シソ科 多年草）
8月上旬から10月上旬に白い穂状の花を咲かせます。



氷の花 シモバシラ



センブリちょうだい！

た。

途中、「しばらく雨が降らないのに水が流れているのはなぜ」などの質問があったり、マツボックリやドングリを拾ったり、レモンエゴマの香りやセンブリの苦みなど五感を使った体験を楽しみました。

冬の高尾山の楽しみの一つに、枯れたシモバシラの茎にできる氷の結晶“シモバシラ”があります。残念ながら、当日は見ることできませんでした。子どもたちには次の機会にぜひ見てもらえればと思います。



ヤマドリソウ



ハナネコノメ



ミヤマキケマン



ヒナスミレ

高尾山にも春が

立春を過ぎるといよいよ春です！高尾山は“ハナネコノメ”や“各種のスマレ”“ヤマドリソウ”や“ミヤマキケマン”などなど、とても華やかな季節を迎えます。花が咲き誇っているとそれを楽しみに大勢の人が高尾山を訪れます。植物観察などを行う際にはどうしても目的の植物の説明が先に立ちますが、森林を歩くときのマナー等を伝えることも私たちの重要な役割だと考えています。

平成22年度を振り返り

今年度は、公募イベント、ふれあい推進事業、依頼イベントと89件のイベントを実施し、延べ3千人を超える方々との出会いがありました。これは、職員一人ひとりが丁寧に対応してきたことが参加者の増加につながっていると思っています。新年度も新しいアイデアを職員全員で出し合いながら有意義なイベントとなるよう努めていきたいと思っています。



**国有林間伐推進コンクールで
林野庁長官最優秀受賞
森林整備部 販売課**



林野庁主催の平成22年度国有林間伐推進コンクールにおいて、茨城森林管理署管内の「株式会社堀江林業（茨城県常陸太田市）」が林野庁長官表彰の最優秀賞を受賞しました。受賞した事例は、機械メーカーと共同し高性能林業機械のヘッドを短時間で容易に装脱着できるように工夫し、更に電気系統についてもキャビンからスイッチひとつで切り替えができるよう改良したことに加え、材の運搬にフルトレーラー（23・5ト、積載量28立方メートル）を導入することにより、燃料費や人件費などの輸送経費を削減し、作業の効率化と総コストを低減させたことが評価されたものです。



古久保国有林野部長から表彰を受ける堀江社長

そのほか優秀賞の受賞者は、次のとおりです。

- ・「列状間伐と高性能林業機械の導入により、間伐コストを大幅に低減化」有限会社下久保林業（青森県・東北森林管理局管内）
- ・「高性能林業機械の導入により生産性の向上」飛騨市森林組合（岐阜県・中部森林管理局管内）



**森林カレッジ
受講生募集
高尾森林センター**

**「森林・林業を学ぶ」
高尾の森で講義&体験**

「森林カレッジ」は一般の方を対象として、高尾森林センターが主催する森林・林業を理解するための講座です。

高尾山の国有林で実際に除伐・下刈・間伐・炭やき・森林の見方などを学びます。また、研究者や専門家から森林の働き、森林の現状や都市と山村の交流活動の講義を受けます。森林ボランティアや森林づくりに興味のある方などにお勧めします。

募集人数 50名（応募者多数の場合は抽選となります。）

対象者 自然や森林・林業に興味がある18歳以上の健康な方で、全日程5回の講座に参加できる方

申込方法 往復はがきに、①住所②氏名③年齢④職業⑤電話番号と返信面の宛名を記入の上、高尾森林センター「森林カレッジ」係までお申し込みください。

申込締切 平成23年4月21日（木）必着

参加費等 ①年会費 1,000円 ②講座参加費 1講座につき500円

高尾森林センター
〒193-0844 八王子市高尾町2438-1
電話番号 050-3160-6040
FAX 042-663-1722
<http://www.rinyuaff.go.jp/kanto/takao/index.html>

お申し込み・お問い合わせ先

V 森を見る 24. 3.10(土)

地球環境問題と森林
森林学者
藤森 隆郎 氏

III 間伐 23.11.12(土)

樹木の仕組みや
成長方法のなぜ
元多摩森林科学園長
三輪 雄二郎 氏

I 除伐 23. 5.21(土)

森林の現状と
森林の働き
高尾森林センター
所長 田中 昌之

IV 炭やき 24. 1.21(土)

炭やきは地球を救う
炭の効用と秘められた力
国際炭やき協力会
会長 杉浦 銀治 氏

II 下刈り 23.7.30(土)

森林に学ぶ 森づくり
ことづくり 人づくり
東京農業大学教授
宮林 茂幸氏





フィールドの分収造林地

平成14年、愛知県新城営業所に配属となり、山間地を移動する度に見る真つ暗な森林に驚いた。

定年後の生きがいやボランティアに求め、「静岡県環境道場師範養成講座」を約半年間受講し、下刈や間伐そして森林の健康診断の体験もした。その結果「地球温暖化」及び「生物多様性」が重点点であり、原点は森林にあると痛感した。ところが今、多くの森林は真つ暗なままの状態にある。「森林の持つ公益的機能そして今何を為すべきかを伝えた



平成20年、静岡県が「しずおか未来の森サポーター」制度を立ち上げ「未来の森のために企業の力」を募集していることを知り、近隣でオイスカ高校が手を挙げていた。早速会社と分収造林契約を締結している箇所をフィールドとして、平成21年6月



間伐材で休憩施設を作設



間伐材を利用し歩道整備

「しずおか未来の森サポーター」活動は現在まで3回実施し、間伐・枝打ち・歩道整備・休憩施設の作設を行った。間伐はノコギリを使って実施したが、慣れない作業でみんな息を切らしている。枝打ちは結構難しく、幹を傷つけず枝を残さず神経を使う。歩道整備や休憩施設は仕事柄

に天竜森林管理署、静岡県、オイスカ高校、中村建設(株)の4者で協定を締結し、国有林と関わるようになった。

オイスカ高校の学校林は、面積2,28畝のヒノキ20年から23年生の人工林で昭和60年に東京営林局長と分収造林契約を結んだ国有林であり、平成15年以降整備されず、早急に間伐や枝打ち、歩道整備が必要であった。

手際よくできる。日ごろ重厚長大な材料などを取り扱っているが、やはり慣れない斜面での移動や作業は大変であることが解った。反面日ごろ触れることのない森林の空気や木の臭いそして鳥の声に癒されるとの声も聞く。今後はチェーンソーの取り扱い者を養成し、子供たちにこの森を体感させ、森林や林業に対する気付きを促す森林環境学習を計画し、更に中村建設(株)の原点は林道工事にあり、そこで培った治山・治水技術をオイスカ高校の生徒に伝承したいと思う。そんな活動の中からフォレストサポーターが一人でも育ってくれることを望んでいる。

半年後定年となるが「これからは森林に関わっていこう。」と思っている。



活動後に参加者で記念撮影

森づくり最前線

千葉森林管理事務所 湊森林事務所 森林官 安達 義文



湊川上流の戸面原ダム



鹿野山周辺の国有林から見た富士山

私の勤務している湊森林事務所は、千葉県の東京湾に面する中西部に位置し、富津市、南房総市、君津市の約2千^{平方}キロを管轄しており、国有林は鹿野山（標高379^{メートル}）周辺と高宕山（標高315^{メートル}）周辺にあり、その多くは県立高宕山自然公園で、一部は南房総国定公園に指定されています。各市ともに森林率は50～65%ですが、国有林の占める割合は低く15%以下となっています。

高宕山周辺の国有林は、湊川の水源林となっており、標高は低いものの急斜面が多く、表土が浅いのが特徴です。そのため、収穫調査や各種作業を行う上では、滑りやすくて大変です。

高宕山周辺には、ニホンザルが生息しており、千葉県と京都大学との研究により、サルの群を生態観察する場として学術上貴重なことから、1956年に国の天然記念物「高宕山のサルの生息地」に指定されました。

また、この地域には、千葉県のレッドデータブックに掲載されているヒメコマツが生育していますが、最近、マツクイムシの被害等で個体数が激減しています。そのためヒメコマツの保護活動を千葉県と協力しマツクイムシ防除の薬剤注入や個体の状況確認などを行っています。

最近、シカの増加の影響からか、ヤマビルが侵入するようになり、悩みの種となっています。

鹿野山周辺の国有林は、東京湾に向かって緩やかな地形となっており、天気の良い日には、東京湾観音や富津岬・東京湾アクアライン海ほたる、そして彼方に富士山が見えます。さらに最近、話題の東京スカイツリーも見えるようになりました。

この地域は、良質の山砂利や山砂が採れ、昭和40年代から50年代に掛けて山砂利の生産事業を行っていました。

また、当森林事務所管内には、優良な木材が生産される山武スギが植栽されていますが、最近、スギカミキリによる被害が目立つようになってきました。被害の拡大防止のために千葉県と協力しながら、生息調査を兼ねて粘着性紙バンドの設置を始めています。

事務所の名称が「担当区」から「森林事務所」に変更されてから19年程経ちますが、地元の人達の中には森林組合と間違えて電話をかけてきたり、事務所に訪れる方もおります。昔の「営林署」ですと名乗ることで分かってもらえるほど知名度が低いのが実情です。今後も、森林の役割や機能（水源林・防風林や木材の生産等）が生活と関係していることなどをPRして、一人でも多くの方々の理解と森林事務所の存在を知ってもらえるよう努めていきたいと思っています。



山砂利採取跡の造林地



スギカミキリ被害防止の粘着性紙バンド

管内の百名山「天城山」



天城山遠景

伊豆半島は、かつて南洋に浮かんだ火山島でしたが、100万年ほど前にフィリピン海プレートが本州に衝突して誕生したため、伊豆固有の植物が多く存在していると言われてます。

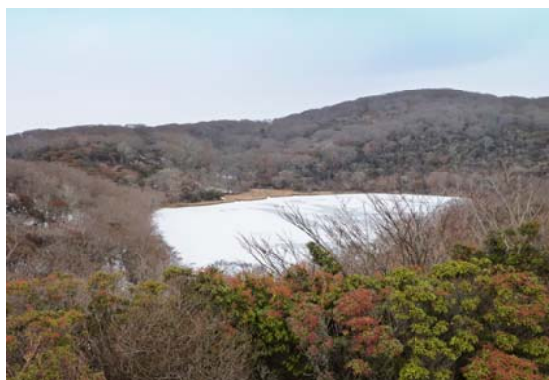
伊豆半島の中央部に位置する天城山は、最高峰の万三郎岳（標高1,406㍎）、万二郎岳（標高1,299㍎）などの山々から構成される連山の総称で、山稜部はブナやヒメシャラなどの広葉樹林が広がっており、各種保護林や国立公園に指定されています。

天城山にはハイキングコースが多くあるのが特徴で、固有種であるアマギシャクナゲなどの花の季節（5月上旬）や紅葉時期（11月下旬）には、多くのハイカーが訪れます。

「天城の瞳」と呼ばれている八丁池の展望台からは富士山や伊豆諸島を望むことができ、今冬は近年珍しく全面結氷したため、真冬にも関わらず多くのハイカーが訪れていました。



アマギシャクナゲ



今冬の八丁池

また、天城山に生育するブナは根元から枝分かれしているものが多く、木によって様々な表情があるため、地元の人々や多くのハイカーを魅了しています。

しかし近年、ブナ枯れが目立つ場所が広がってきており、その後の後継樹も育ってこないため、地元の人々は将来的にブナ林がなくなってしまうのではないかと危機感を抱いています。

伊豆森林管理署では、天城山の貴重な森林生態系を後世に引き継いでいくため、地元の人々の声に耳を傾け、地域と協力してブナ林や衰退が危惧されているマメザクラの保護など、様々な取り組みを実施していくこととしています。



様々な表情のブナ

（伊豆森林管理署 広報広聴連絡官）



アマギツツジ（6月中旬～7月見頃）



国民の森林・国有林

■ ■ 編 発
行 所
集 所
総 関
務 東
課 森
局 林
管
理
局
F T
A E
X L
(0 (0
2 2
7 7
))
2 2
1 1
0 0
・ ・
1 1
1 1
5 5
9 8